

あいちトリエンナーレ2010が開幕し、毎日会場ではたくさんの方々が現代美術に楽しまれています。そんななか、子どもたちで大にぎわいのスペースがあります。

愛知芸術文化センター8階にある「キッズトリエンナーレ」、通称“デNSTAジオ”です。

デNSTAジオの「デン」とは、「穴ぐら」とか「隠れ家」とかを意味する英語に由来していて、子ども時代のひみつの場所をイメージしたネーミングになっています。



↑デNSTAジオ 入口

デNSTAジオは、子どもたちがいつ来てもなにかしら作品をつることができる創作の場です。紙、色紙、絵具、ダンボール、木ぎれなど様々な材料が用意されていて、なにをつくるかは子どもたちの自由です。



↑ダンボールの大きなタワーのなかに、いろいろな材料が用意されています

家族やきょうだいと楽しそうにつくる子どもたち

なにをつくっていいかわからないという子どものためには「いつでもプログラム」が用意されていて、和紙、陶片、金属などなど、いろいろな材料を使って何かを作れるように、ボランティアの方々が子どもたちをサポートしてくれます。



↑「いつでもプログラム」の様子

夏休み中ということもあって、ときに入場制限をもうけなくてはならないほどの混みようです。また、事前申し込み制のプログラムも週末を中心に開かれています。（全プログラム 9/6 締切。お問い合わせ：あいちトリエンナーレ実行委員会 TEL：052-971-6111）。スタジオの壁は、制作した作品の発表の場であり、自由な落書きの場でもあります。開会前の壁やカーテンは真っ白でしたが、プログラムの中で子どもたちは思い切り色を塗って、家や学校ではしかられそうなことをやりました。



↑ダンススタジオをデザインした稲葉伸行さんによるプログラム「ダイナミックお絵かき」

壁に自由に描いています

子どもたちの創作の跡や作品で、毎日部屋の様子は変化しています。今日はどんなかなと、是非のぞいてみてください。小さなアーティストたちの真剣な面差しに出会えますよ。

(M. F.)